

令和 7 年 お茶づくり技術情報（No.6）

2025 年 5 月 14 日
佐賀県茶業技術協会
佐賀県茶業試験場

1. 一番茶作況

1) 生育状況

表 1 一番茶萌芽期

本 年	前 年	前 5 か年平均
3月28日	3月 30日	3月 28日

注) 品種：やぶきた 樹齢：24 年生

表 2 作況調査園の新芽長と開葉数

調査日	4月5日	4月10日	4月15日	4月20日	4月25日	4月30日
新芽長 (cm)	本 年 0.7 ± 0.2	1.0 ± 0.2	1.9 ± 0.5	4.4 ± 0.9	7.8 ± 1.4	9.1 ± 1.3
	前 年 1.0 ± 0.3	2.2 ± 0.6	5.1 ± 1.1	9.3 ± 1.4		
	前 5 か年 1.4 ± 0.4	2.5 ± 0.6	4.6 ± 1.0	7.5 ± 1.3	10.0 ± 1.5	11.5 ± 1.5
開葉数 (枚)	本 年 0.0 ± 0.1	0.7 ± 0.4	1.3 ± 0.4	2.5 ± 0.5	3.5 ± 0.5	4.1 ± 0.3
	前 年 0.3 ± 0.4	1.4 ± 0.5	2.5 ± 0.5	3.7 ± 0.4		
	前 5 か年 0.5 ± 0.4	1.4 ± 0.5	2.3 ± 0.5	3.2 ± 0.4	4.0 ± 0.5	4.4 ± 0.4

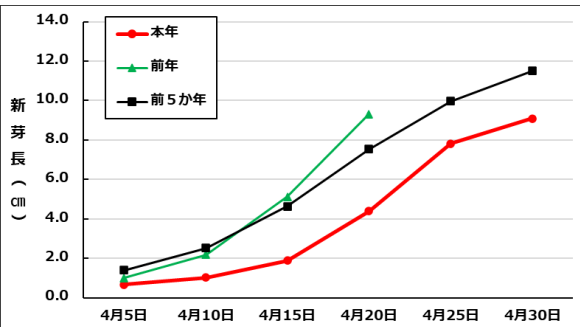


図 1 新芽長の推移

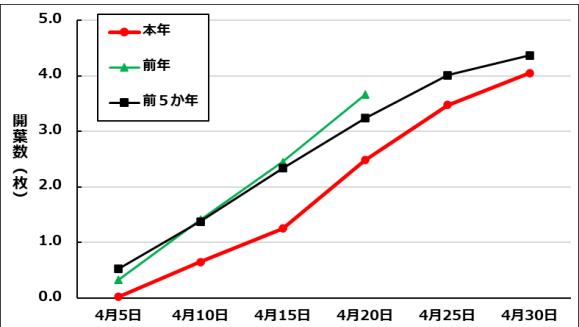


図 2 開葉数の推移

- (1) 場内の作況園（やぶきた）において、2025 年 3 月 28 日に一番茶の萌芽期を迎えた。本年の萌芽期は、前年より 2 日早く、前 5 か年平均と同等であった（表 1）。
- (2) 生育は、萌芽直後の 3 月 31 日の低温（-1.8℃）や 4 月の少雨によって 4 月 15 日までは緩慢であった。4 月中旬の高温によって生育が大きく進んだものの、4 月 30 日時点で新芽長 9.1 cm、開葉数 4.1 枚であり、前年や前 5 か年平均（新芽長 11.5 cm、開葉数 4.4 枚）と比較すると、芽の伸長は短かった（表 2、図 1、図 2）。
- (3) 一番茶の萌芽から摘採までの所要日数は、33 日間で、前 5 か年平均の 29 日間より 4 日間長かった。

2) 一番茶摘採・新芽形質

表3 一番茶摘採日

本 年	前 年	前5か年平均
4月 30日	4月 24日	4月 27日

表4 一番茶収量と収量構成要素

■ 一番茶収量 (kg/10a)

本 年			前 年			前5か年平均		
収 量	指 数		収 量	指 数		収 量	指 数	
565.8 ± 102.2	103 (89)		637.8 ± 72.1	117		546.9 ± 57.5	100	

注) 指数は前5か年平均を100とした値とし、上段には前5か年比、下段括弧内には前年比を示す。

■ 百芽重 (g)

本 年			前 年			前5か年平均		
重 量	指 数		重 量	指 数		重 量	指 数	
59.9 ± 5.8	87 (82)		72.9 ± 12.6	106		68.9 ± 7.7	100	

注) 指数は前5か年平均を100とした値とし、上段には前5か年比、下段括弧内には前年比を示す。

■ 新芽数 (本/m²)

本 年			前 年			前5か年平均		
芽 数	指 数		芽 数	指 数		芽 数	指 数	
1081 ± 43	90 (96)		1131 ± 212	95		1195 ± 182	100	

注) 指数は前5か年平均を100とした値とし、上段には前5か年比、下段括弧内には前年比を示す。

■ 出開度 (%)

本 年	前 年	前5か年平均
41.2 ± 8.2	29.1 ± 8.9	26.7 ± 8.7

- (1) 本年の一番茶摘採日は、4月30日で、前年より6日遅く、前5か年平均より3日遅かった(表3)。
- (2) 一番茶収量は、565.8kg/10aで、前年比89と少なく、前5か年平均比103と同等であった。(表4)。
- (3) 百芽重は、前年比82、前5か年平均比87と少なかった。新芽数は、前年比96、前5か年平均比90と少なかった(表4)。
- (4) 出開度は41.2%で、前年・前5か年平均より12~14%高かった(表4)。

3) これまでの気象 (4月～5月上旬、嬉野)

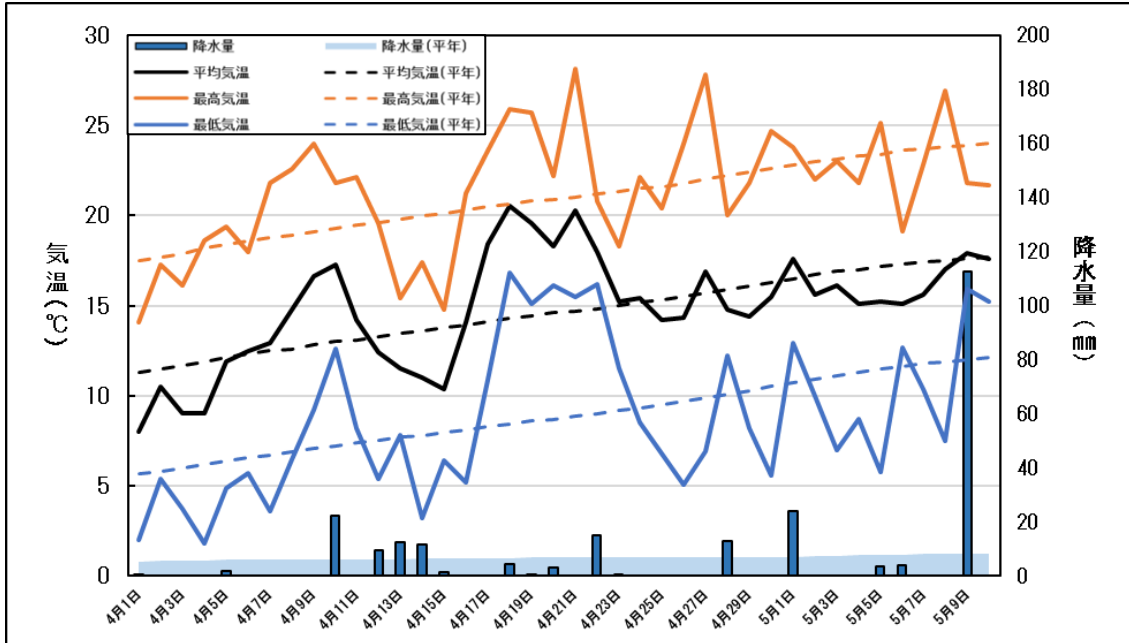


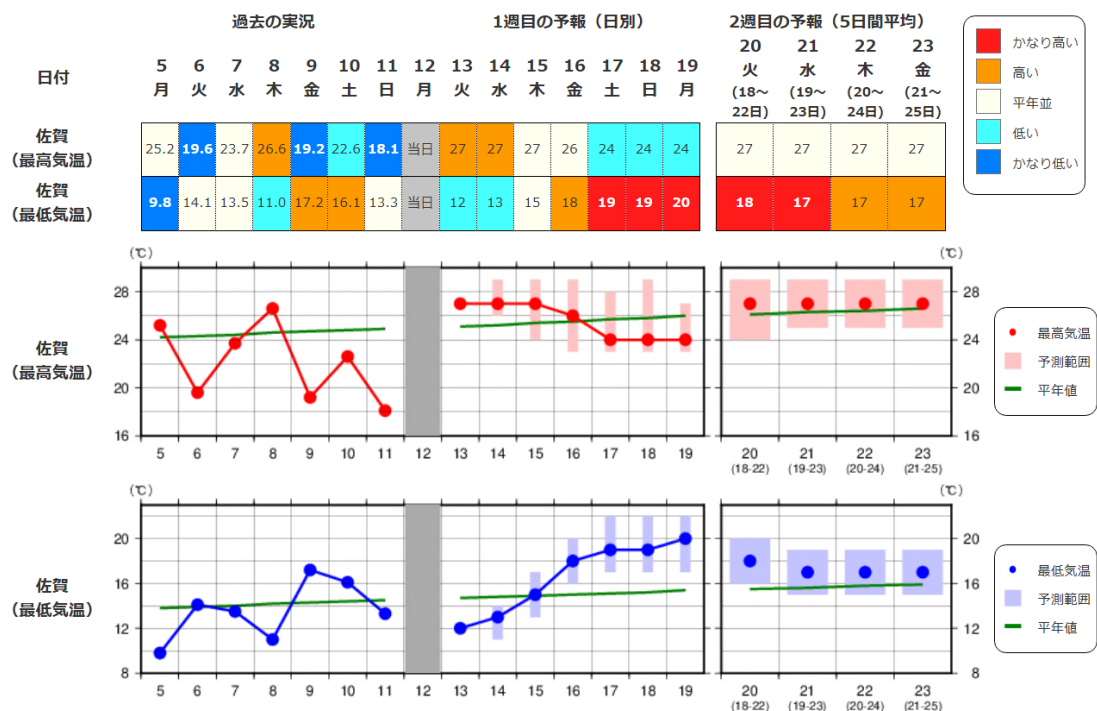
図3 2025年4月～5月における日別気温および降水量

注) 平年値は1991年～2020年の平均値を表す。

- (1) 日別平均気温は、4/9,10 および 4/17～22 は平年よりかなり高く、その他の期間は平年より低く推移した。
- (2) 4月の降水量は合計 96.5 mmで、平年値 194.1 mmの約 50%であった。

4) 今後の気象の見通し

■ 2週間気温予測 (気象庁、2025年5月12日更新)



- (1) 向こう2週間は、最高気温は平年並か低く、最低気温はかなり高くなると予測されている。

■ 1 か月予報（気象庁、令和 7 年 5 月 8 日発表）

向こう 1 か月の天候の見通し 九州北部地方（山口県含む）（5/10～6/9）			
	平均気温（向こう 1 か月）	降水量（向こう 1 か月）	日照時間（向こう 1 か月）
九州北部地方（山口県含む）	低10 並30 高60% 高い見込み	少20 並40 多40% 平年並が多い見込み	少40 並40 多20% 平年並が少ない見込み

- （1）向こう 1 か月の気温は、暖かい空気に覆われやすいため、高くなる予想。
特に、5/17～5/23 の期間が高くなる見込み。
- （2）湿った空気の影響を受けやすいため、向こう 1 か月の降水量は平年並が多く、
日照時間は平年並が少ない見込み。

今後の生育予測や作業時期の調整に気象庁の予報サイトを活用しましょう！



1 か月予報（九州北部）



2 週間予報（佐賀県）

2. 今後の管理

1) 刈りならし作業

（1）刈りならしの時期

- ①一番茶摘採から 10～14 日後を基本とする。
- ②一番茶の芽揃いが悪かった茶園（晩霜害を受けた茶園等）や早摘みした茶園では、
遅れ芽の発生が著しいので、刈りならし時期をやや遅らせる（14～20 日後）。
- ③2 回刈りならしをする場合、2 回目が遅すぎると二番茶芽を剪除し、生育の
ばらつきや減収の原因となるため、作業の遅れに注意する。

（2）刈りならしの位置

- ①刈りならしの位置は、基本的に一番茶摘採後に立ち上がった葉や遅れ芽を除く
程度で、一番茶を摘採した位置で刈りならすようにする。二番茶芽にはハサミを
かけないように十分に注意する。

2) 中切り更新

- （1）秋までの再生芽の生育期間を十分に確保するため、一番茶摘採後速やかに行い、
再整枝は、平坦部では 8 月 5 日、山間部では 7 月 20 日までに行う（中切りから再整枝までの期間は 70～75 日が目安）。
- （2）近年、夏季の高温・干ばつが頻発しており、例年と異なる生育となることも想定
されるため、今後の気象予報を参考にしながら深さを決定する。また、処理直後に樹上散水（0.5～2t/10a）を行うことで、新芽の再生が促進される。
- （3）石灰窒素の散布は、枝条残渣の分解促進並びに樹勢回復に有効である。

3) 土壌・肥料

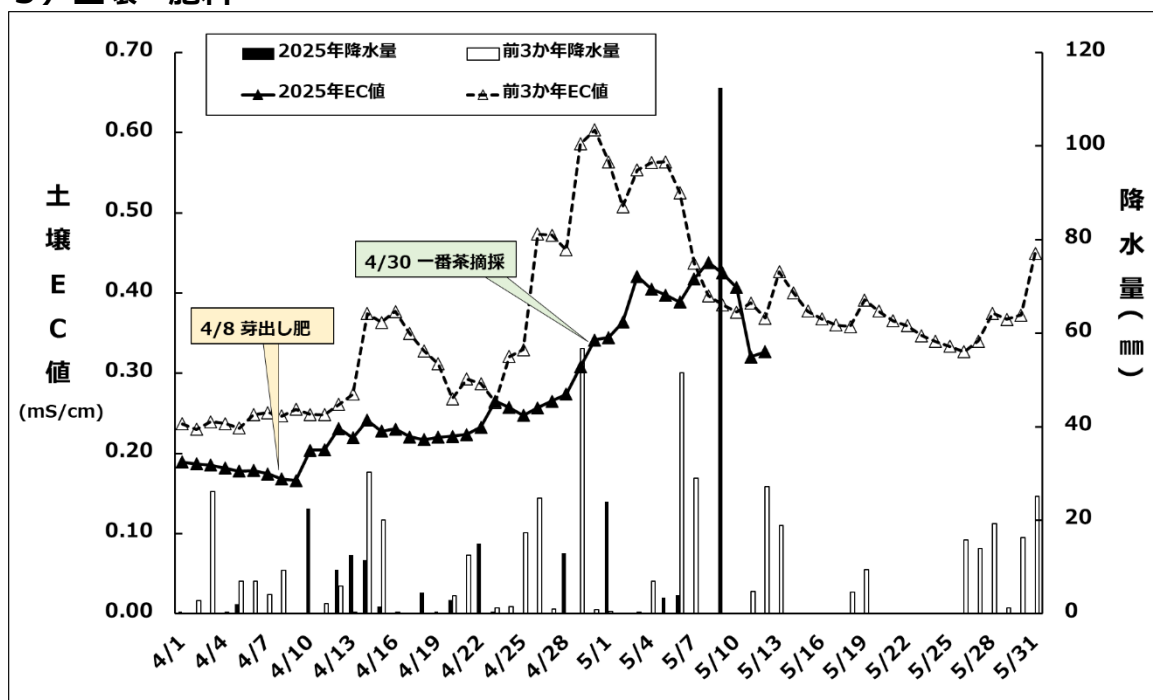


図5 茶試作況調査園における土壌 EC 値の推移

注) 本年の土壌 EC 値は、雨落ち部の深さ 25 cm 部分に埋設した土壌センサーにて測定し、実測値に基づき補正した値を示す

- (1) 土壌 EC 値は、4/10～5/6 の新芽の生育期間中は気温の上昇と定期的な降雨により上昇したものの、5/9 の大雨（111 mm）後に急激に減少している。
- (2) 夏肥 I は、一番茶摘採 2 週間後までに確実に施用し、施用後は土壌とよく混和する。

